

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月14日 更新

事務事業名		こころの相談事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☒ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	澤田 勝矢
	施 策	5 健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	福本 美恵子
	施策の柱	20 病気の早期発見				所属班	健康推進班	(内線)	2132
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 1	事業連番 10365	根拠法令	精神保健福祉法	
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		
								成果優先度評価結果	⑦
								コスト削減優先度評価結果	⑥

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	毎月1回、精神科医師による相談事業を実施している。①広報誌・健康づくり事業計画表・ホームページ・チラシ等により周知。関係各課にも周知を行う。電話や来所(予約制)で、本人や家族による相談を受ける。平成14年度までは県が実施主体であった精神保健に関する事業の一部が市町村に移管されたことに伴い、相談事業を強化する目的で専門医をスタッフに含めた体制とした。相談者数は年間10件程度であるが、病院まで行けない人、また、対応に困っている家族への支援に寄与している事業である。
【業務の流れ】	相談事業は、電話及び窓口相談により解決しない場合、設けた相談日で予約を受け相談を実施する。日程・時間は予約制。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	相談者数は横ばい。健診の機会等も利用し、今後も周知を行い早期相談に繋げたい。話を聞いてもらえて良かった等の意見あり。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
こころの相談：実施回数5回、相談者が8件あった。子育て中の母の悩みが多く病院受診を勧めた。		こころの相談事業：年間7回の実施。1回の相談日で2枠相談可能。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
⇒ ア：相談回数	回		
⇒ イ：			
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
こころの悩みを抱えている人。		⇒ ア：相談者数	人
		⇒ イ：	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
こころが元気になる。適切な医療につながる。今の状況を改善するきっかけになる。		⇒ ア：受診をすすめた人の数	人
		⇒ イ：相談を受けて元気がなった人の割合	%
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
相談に来所した家族や本人が相談することで、こころが元気になることを目的とするため、成果の指標を相談を受けて元気になった人の割合とした。また、場合により、医療機関を受診することが必要な人もいたため、成果の指標として受診をすすめた人の数とした。			全体計画 ～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移										
		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア	回	6	5	7	5	7	7	7	7
	イ									
② 対象指標	ア	人	9	6	11	8	11	11	11	11
	イ									
③ 成果指標	ア	人	2	4	4	2	4	4	4	4
	イ	%	100	100	100	100	100	100	100	100
投資 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金 千円							
		都道府県支出金 千円								
		地方債 千円								
		その他 千円								
		繰入金 千円								
		一般財源 千円	184	163	152	108	152	207	207	207
	(A) 事業費計	千円	184	163	152	108	152	207	207	207
		(A)のうち指定経費 千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤 千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員従事人数 人	3	3	7	5	7	7	7
	延べ業務時間 時間		332	278	160	138	160	160	160	160
	(B)人件費計 千円		1,322	1,032	637	0	637	637	637	637
トータルコスト(A)+(B) 千円			1,506	1,195	789	108	789	844	844	844

事務事業名	こころの相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	----------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】 電話相談や他課からの紹介等により、こころの相談につなげることが出来た。目標値への達成はできなかったが、相談者に対して今後の方向性や対応について等改善に向けてのきっかけ作りとなっており、重要な事業だと思われる。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 年間の日程が決まっており、随時案内はできない状況。そのため、相談内容によっては、医療機関や関係機関への紹介を必要に応じて行っていく。併せて周知の拡大や対象者の見直しも行っていく。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 こころの相談について広報誌・すこやかカレンダー、パンフレット等での周知のみならず、健診時など多くの機会を捉え周知していく。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似した事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 医師への報酬等については、前年度同様。これ以上の削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事務に係る時間数も最小限で行っておりこれ以上の削減余地はない。保健師という専門職が対応することが大事な事業である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 相談を受けたい人を対象にしているので、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 窓口として職員で対応し、より専門職への相談につなげている。

3 評価結果の総括（CHECK）

相談者数が横ばいの状況。相談日が決まっていることもあり、タイムリーに相談につなげることができない場合もあった。しかし、身近な相談のできる場所として今後も周知を行い、必要な人が相談できる場としていく。今後はこころの相談の周知徹底を行っていききたいと思う。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）